

美濃守○道中立合於下口勘定所溜へ詰、大廣間、帝鑑間、柳之間、諸家家來江左近將監行石川申渡左之通、

申渡

東海道往來ニ而、最寄ニも無之面々、近來中山道、甲州道中往返いたし候諸家家來多有之趣相聞候、右兩道は定人馬も東海道とは違數少、一體農業第一之場所ニ候へば、旅人又は諸家荷物等多往返有之候而は、繼人馬も多、自助郷村々も一統難義之筋にも至り候、依之道中奉行江問合之上、往返可有之義ニ候、左候得ば時節等之差略も有之事ニ候間、中山道往返定例之面々は格別、其外は勝手ニ付、中山道甲州道中共、家來并荷物共旅行いたし候義は、いづれも道中奉行江相達、差圖之上、往返いたし候様可被取計候、

未九月

水戸佐倉海道

〔徳川禁令考五十五正徳二辰年三月  
諸法度〕

東海道、中山道、日光海道、奥州海道、水戸佐倉海道、江相渡書付、

定

一公家衆門跡方道中往來之時者、人足三十人、馬三十四匹相限り候處、近年者御定人馬之外、添人馬多相立候故、宿々并助人馬出候在々迄困窮ニ及ぶ由相聞候、向後たとひ宿々馳走として人馬差出候とも、御定り之員數、馳走之人馬共、都合五十人三十匹之外、一切差出すべからざる事、

略○申

右之條々并前々定之通堅可相守之、若此等之趣ニ相背、向後宿々又ハ加宿助郷等難儀之由申訴候ハ、可爲越度もの也、

正徳二辰年三月